

平成29年度  
第2回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会  
議事要旨

日時：平成29年10月11日（水） 8:00～17:20

場所：南相馬市主灰封入施設及び中間貯蔵施設（双葉町）受入・分別施設

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 研究科長 教授	吉岡 敏明

オブザーバー

福島県相双地方振興局 県民環境部 副部長兼環境課長	國井 芳彦
福島県生活環境部一般廃棄物課 主幹	富永 幸宏
東京二十三区清掃一部事務組合 主任主事	箆島 保

議事要旨

I 本日の議事等

1. 南相馬市仮設焼却施設における主灰の地盤改良用収納容器への封入について
2. 中間貯蔵施設（双葉町）における受入・分別施設について

II 質疑応答

1. 南相馬市仮設焼却施設における主灰の地盤改良用収納容器への封入について  
冒頭、JFE・日本国土特定業務共同企業体（以降、JFE・日本国土JVと記載）より、業務内容について説明があった。

（1）品質確保のための方策について

委員より、主灰封入時における品質確保のための方策について質問があった。JFE・日本国土JVより、当初は基礎試験結果から1.35程度の比重で基準重量を設定していたが、後にフレキシブルコンテナによる主灰の性状のばらつきが確認されたことから、主灰の最大乾燥密度の測定を再度行い、基準重量を設定し直したとの回答があった。

(2) 施設の改善点について

委員より、施設の設備について、運転開始後に改善した点について質問があった。JFE・日本国土JVより、破袋機のカッターと一緒にフレキシブルコンテナも回ってしまう症状が認められたため滑り止めの対策を講じたが、これ以外に設備の不具合等は確認されていないとの回答があった。

(3) 作業員の服装について

委員より、夏場の防護服の着用は大変なので労働安全衛生上の工夫をすべきとの意見があった。JFE・日本国土JVより、作業中に万が一主灰が飛散した場合のために防護服の着用を義務づけているが、夏場の熱中症対策として施設内にエアコンハウスを設置し1時間に最低1回20分程度の休憩をとるようにしているとの回答があった。

(4) 集じん器のフィルターについて

委員より、局所集じん器及び建屋集じん器のフィルターについて質問があった。JFE・日本国土JVより、粉じんの発生はほとんどみられないが、局所集じん器及び建屋換気設備については3次フィルターとしてHEPAフィルターを装備しており、また、HEPAフィルターは交換が必要な差圧に達する前に定期的に交換しているとの回答があった。

2. 中間貯蔵施設（双葉町）における受入・分別施設について

冒頭、前田・奥村・鴻池特定建設工事共同企業体（以降、前田・奥村・鴻池JVと記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 土壌の放射性物質濃度による分別について

委員より、土壌の放射性物質濃度による分別方法及び分別結果の確認をどのように行っているかという質問があった。前田・奥村・鴻池JVより、土壌の放射性物質濃度による分別は、ベルトコンベヤの上で土壌を一定の厚さに成型した上で、シンチレーターを用いた濃度測定によって分別しており、分別結果は、ゲルマニウム半導体検出器で確認しているとの回答があった。

(2) 搬入物の分別工程について

委員より、搬入物の分別後の性状について質問があった。前田・奥村・鴻池JVより、二段階のふるい機を使って選別しているが、それぞれのふるい機で残ったものは手作業にて付着している土を払い落す等して、可燃物、不燃物及び除去土壌に分別しているとの回答があった。

以上